

④防災に関する活動（地域コミュニティ協議会）

事例① 安否確認表示訓練（無事です旗）【八原まちづくり協議会】

★活動内容

大地震発生を想定し、防災に対する意識の高揚に努めるために実施。自宅前の道路から見やすい場所に「無事です」旗を表示することで、あるいは表示しないことによって自分の安否を近所に知らせる訓練である。

★活動スケジュール・プロセス

●令和2年

- ①6月 運営委員会で防災委員長から、「合同防災訓練」中止についての提案あり。運営委員会で中止を決定。
- ②7月 第3回防災委員会において、「合同防災訓練」の代替として「無事です旗・掲示訓練事業」を決定。「無事です」旗の作成へ。
- ③10月 防災委員会で「旗」を住民自治組織ごとに分ける作業を行う。
- ④福祉委員会開催の「みなづき会」(11/8, 15, 22)において、各住民自治組織の代表者に訓練実施の趣旨説明をし、理解と協力を得る。各住民自治組織の代表者に「旗」と「実施のためのフローチャート説明」を配付。
- ⑤12月 実施の周知を図るために、各住民自治組織の代表者に回覧を依頼する。



★活動の成果・課題

- ①訓練当日午前9時、防災無線により訓練開始。各住民自治組織の班長が表示の有無を確認し、表示の数を区長・自治会長へ報告。各区長・自治会長は協議会事務局（八原コミュニティセンター）へ報告。その後、防災委員会で集計。表示率は53%であった。
- ②成果として、防災に対する意識が高まった。自ら守るという安全意識が生まれ、家族や近所の安全確保へとつながる輪が広がった。
- ③課題として、今後とも地域及び各家庭において、有事の際の安全確保に関しての話し合いを持ち、この訓練を活用して欲しい。

★苦勞した点・工夫した点

- ①「無事です」旗のオリジナル版を作成し、八原小学校区の全戸に配布したこと。
- ②住民自治組織の代表者や民生委員児童委員の皆さんが出席する会議において、訓練の趣旨や実施方法を説明し、協力及び多数の参加を呼びかけたこと。

自助 共助 公助 近助!

「無事です」旗の掲示訓練を行います。

日時：令和2年12月13日(日)
午前9時から

訓練当日は市の防災無線で、開始および終了の放送をします。

八原まちづくり協議会で「無事です」旗を各戸へ配布致します。
この旗は大地震などが発生した際に使用することで、ご自身の無事を隣近所や班長の方に、いち早く知らせるための大切な手段となります。大地震などの災害が発生した際は、以下の方法で使用してください。

◎「無事です」旗の使用方法について

大地震が発生

無事 被害あり

「無事です」旗を道路から見やすい場所へ掲示

「無事です」旗は掲示しない

「無事です」旗は地震発生後でもすぐに取り出せるよう、非常時お出し易に保管してください。
使い方について不明な方は、八原コミュニティセンター4（TEL：04-8246）までお問い合わせください。

八原まちづくり協議会 防災委員会

問合せ先：八原コミュニティセンター（八原まちづくり協議会事務局）TEL：0297-64-8246

④防災に関する活動（地域コミュニティ協議会）

事例② マイ・タイムラインで洪水から身を守ろう【大宮ふるさと協議会】

★活動内容

水害想定避難訓練及びマイ・タイムラインを作成して防災意識を高める。

一般参加者は、避難場所である大宮小学校体育館に集合し、各自マイ・タイムライン作成。また、小学生も担当者指導の下、各教室において全員がマイ・タイムラインを作成し、終了後体育館に移動し合流する。

★活動スケジュール・プロセス

- ①5月19日の生活安全委員会において、今年度の合同防災訓練(マイ・タイムライン作成)の実施日(6月29日)及び資料の確認。
- ②5月29日15区の区長に参加協力・資料配布を依頼。(各地区5人以上の参加要請)
- ③5月29日大宮小学校校長先生・教頭先生に資料配布。
- ④6月17日各区からの参加者名簿の確認・整理。
- ⑤6月28日前日準備 会場設置。(テーブル・椅子の設置, 展示物の搬入等)

★活動の成果・課題

- ①開催当日(6月29日)午前8時に大宮地区の防災無線により、避難行動開始。大宮小体育館で順次受付。午前9時前には参加者名簿通りの方々が集合。この間、市の対策本部に避難者人数を20分毎に報告。
- ②午前9時市危機管理課の担当者により「マイ・タイムライン講座」が始まる。講座は、大宮地区を東西南北の4ブロックに分けて行い全員が作成する。他に各ブロック共同で一つ作成してそれぞれ発表する。

- ③小学生及び保護者の方は、教室において「マイ・タイムライン講座」を受講しました。
- ④成果として、今回が2回目の「マイ・タイムライン講座」でしたが徐々に防災意識が高まったように思われます。
- ⑤事前に、マイ・タイムラインを作成しておく、災害時にいち早く行動ができるという利点があるので訓練に参加しない方々にもぜひ推奨して下さいとのこと。

★苦勞した点・工夫した点

- ①開催前数回にわたり市危機管理課職員との打ち合わせを実施。
- ②小学生児童への「マイ・タイムライン」の説明を学年毎に実施。(各教室において)
- ③駐車場の確保。
- ④開催前日の展示物の搬入と机イスの準備が大変でした。



問合せ先：大宮コミュニティセンター（大宮ふるさと協議会事務局）TEL：0297-64-8149

④防災に関する活動（地域コミュニティ協議会）

事例③ 災害時避難行動要支援者安否確認訓練【北文間コミュニティ協議会】

★活動内容

「震度 6」の地震が発生したと想定し、北文間地区の各自主防災組織で要支援者の把握をし、連絡体制強化を目標に訓練しました。

住民の避難については、住民一人一人が、あらかじめ、災害の種類ごとにどのように避難するかを記載・用意しておく「災害・避難カード」を備え付けておく必要がある。

★活動スケジュール・プロセス

令和元年 5月 21日

災害時避難行動要支援者安否確認要領の検討

7月 14日 北文間地区 区長会会議

8月 担当者会議・安否確認訓練シナリオ案作成

10月 安否確認訓練調整会議

12月 8日 安否確認訓練実施

★活動の成果・課題

地区別の避難行動要支援者の数が把握できた。

災害避難カードを作成することにより、災害種類別に避難場所が把握できた。

★苦勞した点・工夫した点

北文間地区は南が丘を除き、地区の地形が低く、小貝川が決壊した時大部分が水没します。

水害の時、要支援者の数と場所の把握が重要だと再確認しました。



災害・避難カード

| 災害 | 避難所（避難場所） | 注視する情報 | 危険な状況 |
|-------|------------------------|----------------------------|------------------------------|
| 小貝川洪水 | 県立竜ヶ崎南高等学校 | 押付水位観測所（避難勧告） | 7.9m |
| | | 押付水位観測所 （避難準備・高齢者等避難開始） | 7.7m |
| 土砂災害 | 羽原集会所 北文間コミュニティセンター | 避難勧告 | 気象庁土砂災害警戒判定メッシュ情報 崖崩れの兆候等 |
| | | （避難準備・高齢者等避難開始） | |
| 地震 | 旧北文間小学校 | 避難勧告 | 倒壊の危険性がある 場合等 |
| | | 避難指示 | |

問合せ先：北文間コミュニティセンター（北文間コミュニティ協議会事務局）TEL：0297-64-8249

④防災に関する活動（地域コミュニティ協議会）

事例④ 防災倉庫の機材動作確認訓練【北文間コミュニティ協議会】

★活動内容

台風の時期を迎え、災害時の対応ができるよう倉庫内の機材が正常に動き故障が無いが、動作確認と使い方の講習、備蓄品の整理などを行いました。去年も実施し今回で2回目の訓練になります。

★活動スケジュール・プロセス

災害はいつやってくるか分かりませんので、倉庫内の管理を徹底する為にも倉庫内の動作確認訓練は定期的の実施する必要があります。各種発電機の使いの訓練も必要です。

★活動の成果・課題

- ・3台中2台に発電機のフィルターに劣化がありました（うち1台が稼働しない為、修理依頼申し込みしました）。
- ・発電機は定期的にオイル抜きをする必要有り。
- ・太陽光ソーラーパネル付き発電機の使い方の講習を行い、晴れていた為実際にパネルで発電し正常に稼働確認しました。
- ・ガスボンベ付き発電機の使い方の講習を行い、使い方を学びました。
- ・倉庫内の備蓄品を日付の新しい物は奥に、古い物は前に整理しました。

★苦労した点・工夫した点

- ・発電機が重いので移動が大変でした。
- ・倉庫内の備蓄品を納める棚があったら収納がしやすい。



問合せ先：北文間コミュニティセンター（北文間コミュニティ協議会事務局）TEL：0297-64-8249

④防災に関する活動（地域コミュニティ協議会）

事例⑤ 防災の手引き【龍ヶ崎西コミュニティ協議会】

★活動内容

いつ起きるか予測がつかない大震災に備え、日頃の準備や災害時の行動を分かりやすくまとめた冊子の作成。龍ヶ崎西地区内の各戸に配布し、防災の意識を高めてもらう。

★活動スケジュール・プロセス

- ①冊子内容の検討。
- ②龍ヶ崎西地区避難場所の確認。
- ③読みやすく、分かりやすいレイアウトの考案。
- ④市危機管理課の担当者に内容の確認をしてもらう。
- ⑤冊子印刷。
- ⑥龍ヶ崎西地区自主防災組織の代表者に手引きの説明。
- ⑦龍ヶ崎西地区内各戸配布。（約 2, 600 戸）

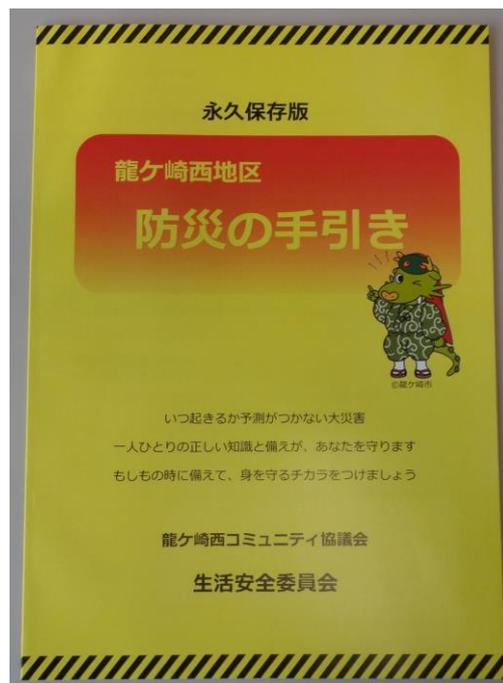


★活動の成果・課題

- ①西地区の自主防災組織の活動に活用することができる
- ②各家庭において、災害に備えての諸備品の整備や、いざという時の避難場所が分かりやすく理解できる。

★苦勞した点・工夫した点

「まいりゅう」の使用や、イラストを多くすることにより、誰もが馴染みやすい内容にした。



問合せ先：龍ヶ崎西コミュニティセンター（龍ヶ崎西コミュニティ協議会事務局）TEL：0297-64-0624

④防災に関する活動（地域コミュニティ協議会）

事例⑥ 防災マップの作成【龍ヶ崎西コミュニティ協議会】

★活動内容

龍ヶ崎西地区(米町東区・米町南区・米町西区・水門1区・水門2区・馴馬町上米区・新町本町区・新町南区町内会・高砂区町会・直舳区)の消火器や消火栓の位置を確認し、マップに起こす。完成した防災マップを各区長に配布し、地区の皆さんが見やすい場所に掲示してもらうことにより、防災の意識を高めることができる。

★活動スケジュール・プロセス

- ①生活安全委員会メンバー3人1組で各区を回り、現地調査を実施。
- ②消火器や消火栓の位置を確認し、マップに書き込む。
- ③印刷。
- ④龍ヶ崎西地区内の各区長にマップを配布し、防災活動に役立てて貰う。

★活動の成果・課題

- ①各地区にある消火器の位置や製造年月日を改めて確認する機会になった。
- ②防火水槽の位置や数など、不足していないか知ることができた。

★苦勞した点・工夫した点

現地調査中は協議会のスタッフジャンパーを着用した。



④防災に関する活動（地域コミュニティ協議会）

事例⑦ 西小，西地区合同防災訓練【龍ヶ崎西コミュニティ協議会】

★活動内容

龍ヶ崎西小体育館，校庭を会場にし，龍ヶ崎西小児童と地域住民合同の防災訓練。

★活動スケジュール・プロセス

- ①市危機管理課，消防署，警察署と相談。（6カ月前まで）
- ②企画書を作成。（3カ月前）
- ③企画書をもとに龍ヶ崎西小と打合せ（2カ月前）
- ④広報紙で龍ヶ崎西地区全戸に訓練参加の呼びかけ。（1カ月前）
- ⑤区長名で各区内に参加呼びかけの回覧。（2週間前）
- ⑥地区内各自主防災組織の合同会議を開き，協力を要請。（2週間前）
- ⑦会場準備，設営。（前日）

★活動の成果・課題

- ①毎回 550～600 人の参加実績があり，開催の成果は上がっている。
- ②各地区の自主防災組織も非常に協力的で，地域に根差した活動になっている。

★苦勞した点・工夫した点

体育館と校庭とを使い，体験種目と見学種目の配置とタイムスケジュールをきちんと立て，児童と地域住民とが入り混じらないようにした。



④防災に関する活動（地域コミュニティ協議会・住民自治組織）

事例⑧ 災害時無線交信システムの導入・交信訓練の実施

【馴柴まちづくり協議会・馴柴地区自主防災会】

★活動内容

- ①大規模地震災害時に、馴柴地区災害対策本部（馴柴小学校=指定避難所に設置）が、地区内の 27 ヶ所の各自主防災会の被災・活動状況を無線交信で確認して、市災害対策本部にMCA無線で伝達することにより、[各防災会⇔馴柴地区防災会⇔市]の各対策本部が、リアルタイムで連携しながら防災活動に取り組めるようにした。
- ②災害発生時に適切に交信できるように、[地区対策本部⇔各防災会対策本部]間の無線交信訓練を、定期的に毎年 4 回実施している。

★活動スケジュール・プロセス

- ①平成 29 年度定期総会で、災害時用無線交信システムを、宝くじ補助金（コミュニティ助成事業）による助成を申請して導入することを決定した。
- ②平成 29 年 11 月に市を経由して助成申請し、平成 30 年 3 月に補助決定を受けた。
- ③平成 30 年 7 月、業務用無線機システム（出力 5W）（基地局 1 基、携帯局 30 台）を購入し、馴柴小学校・体育館屋上に基地局用の高利得アンテナを設置した。（総額 182 万 5 千円、うち助成金 180 万円）
- ④対策本部に基地局 1+携帯 3 台、各防災会に携帯 1 台を配置し、27 の防災会を 4 ブロックに分割して、4 つのチャンネルで短時間に交信できるようにした。
- ⑤交信に習熟するための交信訓練を、毎年 4 回（4 月・7 月・10 月・1 月）実施しており、対策本部の交信員は、各ブロックが交替で務めている。

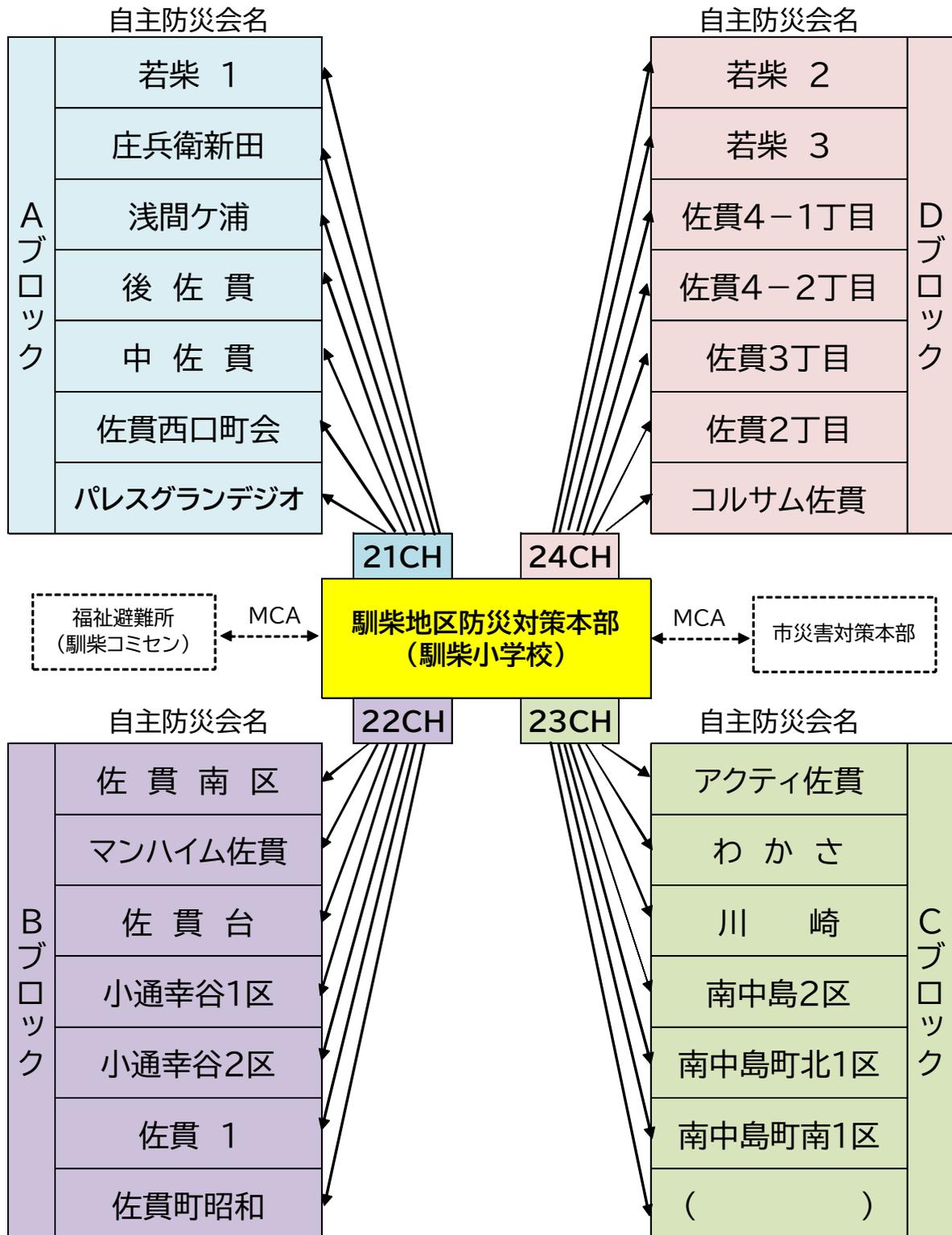
★活動の成果・課題

- ①大規模地震による広域被害多発時には、電話などによる連絡が困難になるが、この無線交信システムと市のMCA無線の活用により、[各防災会⇔馴柴地区防災会⇔市]の各対策本部間をリアルタイムで連携できるため、適切・迅速に防災活動に取り組める。
- ②毎年 4 回の無線交信訓練を実施しているため、各防災会が交信に慣れてきた。
- ③今後は、第 2 指定避難所の併設時及び地元消防団の無線機との連携等の運用の拡大について検討していく。

★苦勞した点・工夫した点

- ①本部用無線機 4 台、各防災会を 4 ブロックに分けて、4 つのチャンネルを使って短時間に交信できるようにし、かつ、他の事業者との混信を極力避けるため、使用頻度が少ないチャンネル（21CH~24CH）を選んで交信している。
- ②電波が最も届きにくいブロックの防災会とは、地区対策本部側の無線機に「屋上アンテナ+基地局」を当て、その他のブロックとは、本部用携帯局を当てて交信している。
- ③基地局は、馴柴小学校の体育館内の放送室に設置し、体育館と放送室の鍵は、コミセンの防災ボックスに収納して災害時に持ち出せるようにしている。
- ④年 4 回の交信訓練で、各防災会の交信習熟者を極力増やし、交代で各ブロックが本部交信員を務めることによって、本部交信員の習熟者も合わせて増やせるようにしている。

災害時の無線交信連絡図



問合せ先：駒柴コミュニティセンター（駒柴まちづくり協議会事務局）TEL：0297-66-7214

④防災に関する活動（行政）

事例⑨ ハザードマップウォーキング（「防災」×「健康」）【市危機管理課・流通経済大学】

協力：川原代ふれあい協議会・北文間コミュニティ協議会・龍ヶ崎地域コミュニティ協議会

★活動内容

高齢者の迅速な避難行動のためには、地域の災害リスク把握や避難行動の知識の向上と共に、避難行動に不可欠な健康体力づくりも必須。本事業ではハザードマップ内容と自身の健康体力を知っていただいたうえで、参加者に浸水想定区域を歩いていただくことで、より強い動機付けが可能と考えました。

- ①2グループに分けて、参加者全員の体力測定。
- ②グループに分けて、「防災の手引き」を活用した災害リスクの確認。
- ③避難所までのウォーキングコースを設定し、各地区における災害のリスクの現場確認を実施。また、流通経済大学によるウォーキング指導も合わせて実施（道中で防災クイズを実施）。
- ④ウォーキング後に参加者全員に体力測定結果を手渡し、今後の健康体力づくりの機運を高める。

★活動スケジュール・プロセス

- ①令和2年9月 浸水想定区域である3地区に打診。
- ②令和2年12月 イベント会場調整。
- ③令和3年1月 3地区と事前打合せ。
(市危機管理課・流通経済大学)
- ④3会場に分けて実施。
令和3年2月9日(火)川原代地区
22人参加
令和3年2月18日(木)北文間地区
22人参加
令和3年2月19日(金)龍ヶ崎地区
19人参加

★活動の成果・課題

- ①講義とウォーキングを組み合わせた学習の機会を提供しました。アンケート調査では、全体の42%はたくさんの学びがあったとの回答がありました。これに、少しは学びがあったという回答を含めると全体の95%に成果がありました。
- ②体力測定とウォーキング指導を実施。96%が参加により運動・スポーツを実施したいという意欲を持つようになったと回答しており、今後の生活習慣改善が期待されました。

★苦勞した点・工夫した点

新型コロナウイルス感染症の影響により、2グループに分けて（体力測定・防災講話）の実施になりました。コミュニティセンター内に、ポスター掲示をして地域の方、来館者の方々に声をかけたりして参加者を集めました。

◎防災講座



◎体力測定



◎ウォーキング風景



◎防災クイズ



◎体力測定結果説明



◎ロコモスキャン



問合せ先：市危機管理課 TEL：0297-64-1111

④防災に関する活動（行政）

事例⑩ 感染症を意識した避難所開設訓練【市危機管理課】

協力：松葉小学校区協議会

★活動内容

台風シーズンを迎え、新型コロナウイルスの感染症が拡大（第2波・第3波）した状況時に浸水想定される区域から高台への避難者が想定され、避難所開設が急務となります。このような状況下における避難所開設は市でも事例がないため、避難所内の感染症対策を実施したうえで避難者を受け入れることを想定し、避難者や地域住民の協力をいただきながら避難所開設訓練を行いました。

★活動スケジュール・プロセス

①日時

令和2年7月12日（日）

午前9時～午後11時

②場所

松葉小学校、松葉コミュニティセンター

③訓練参加者

- ・龍ヶ崎市職員 10人程度
- ・施設管理者 松葉小学校教職員数人
- ・防災士
- ・地域住民（松葉地区）20人程度
- ・避難者（馴染地区・川原代地区・北文間地区など）20人程度
- ・見学者 10人程度
- ・協力企業 セツツカートン（株）

つくば工場

（ダンボール間仕切りの組み立て方法について指導）

④訓練シナリオ

訓練は水害想定で実施。台風接近に伴う大雨による河川の水位上昇に合わせた災害対応を実施します。

⑤タイムスケジュール

午前9時～9時15分

訓練概要と訓練の流れについて説明。

午前9時15分～午前10時30分

避難所開設訓練。

午前10時30分～午前11時

訓練を通じての意見交換。

★活動の成果・課題

避難所開設・受付開始、避難準備・高齢者等避難開始発令、避難勧告発令の流れで訓練を行った結果、避難所となる小学校の協力、受付、検温方法、間仕切り設営、役割分担対応、夜間の熱中症対策等のさまざまな課題が出てきた。この結果を踏まえて、今後の避難所運営体制を構築していく。



問合せ先：市危機管理課 TEL：0297-64-1111

④防災に関する活動（住民自治組織）

事例⑪ タウンハウス防災訓練【小柴4丁目タウンハウス自治会】

★活動内容

- 地震発生時の火災を想定し「安全・安否確認」から「一時避難」までの訓練を行う。
- この訓練は、地震発生時に「自分がどう行動すれば良いか」「ご近所同士でどう助けあえば良いか」を確認すること、あわせて、「不足と感じたこと」や「不安と感じたこと」などのご意見をうかがって活動や体制を見直すことを目的としている。

★活動スケジュール・プロセス

午前8時45分～ 受付（出席者数確認，当日配布資料配付，班案内）

午前9時～ 開会，会長挨拶，市危機管理課職員紹介

午前9時5分～ 「訓練内容」と「火災への対応」の解説

- ・今回の訓練について
- ・「地震発生時の火災への対応」
- ・「安全・安否の確認」と「一時避難」の手順

午前9時35分～ 自宅へ戻り，休憩

午前9時55分～ 本部は「集合場所」待機，進行係は「担当ブロック」待機

午前10時～ 「安全・安否の確認」と「一時避難」の訓練開始

午前10時45分～ 一時避難完了確認後，会長挨拶後アンケート配布後，一般住民解散

午前11時～ 検討会（役員・防災ボランティア参加）
検討後，危機管理監・防災アドバイザーより講評

正午 終了



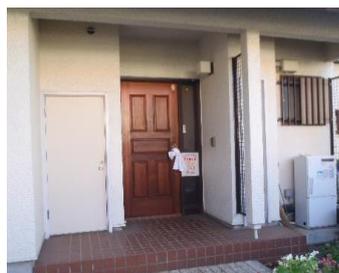
●一時避難先での様子

★活動の成果・課題

- 参加世帯数 56 世帯（57%）（役員・防災ボランティア・一般住民 計 78 人）
- 検討会・アンケートから
 - ・「ご近所同士による安全・安否の確認，一時避難」の手順は理解できた
 - ・被災時の手順の浸透を図るために繰り返す必要がある
 - ・出火予防策として，「感震ブレーカー」を全戸へ設置する
 - ・火災対策として，「スタンドパイプ」を整備する
- その他
 - ・平成23年から「防災計画説明会」「安全・安否確認」「一時避難訓練」「資機材取扱い訓練」「出火時参集訓練」「消火訓練」「救助訓練」と，毎年異なるテーマで説明会・防災訓練を繰り返し実施してきたことで防災意識が浸透しつつある。
 - ・防災ボランティア人数 10人→28人
 - ・居住者名簿提出率 55%→80%

★苦勞した点・工夫した点

- 住民が訓練に興味を持てるように，毎回異なるテーマで実施している
- 住民が訓練に参加しやすいように，自治会清掃日に実施した
- 訓練後の検討会で，訓練での気づきを話しあい，防災計画を見直している



●安否確認用に玄関先に目印のタオル



●訓練終了後の検討会の様子

問合せ先：市コミュニティ推進課 TEL:0297-64-1111

④防災に関する活動（住民自治組織）

事例⑫ 真に役立つ体制作り【松ヶ丘1区自主防災会】

★活動内容

災害発生時に「真に役立つ組織」とするため以下を実施

- ①機動性を向上させるため、現状の班を3グループ程度に分割
 - ・1グループ20世帯程度（8班で23グループとした）
 - ・各グループにリーダー及びサブリーダーを配置
- ②効率的な活動とするため、区会役員と自主防災会役員を兼務
 - ・区長⇒自主防災会顧問，区会班長⇒自主防災会班長
- ③災害時避難行動要支援者に対する地域支援者を配置（原則班長）
 - ・防災調査票を各戸配布し，要支援者の有無及び，支援いただける方の把握を実施
- ④防災用資機材の計画的整備
 - ・必要な資機材の整備及び，発電機の試運転（毎月実施）
- ⑤松ヶ丘1区のハザードマップの見直し及び防災組織グループ図の作成・配布

★活動スケジュール・プロセス

令和3年度より、「真に役立つ組織」として新体制発足を目指し進めてきましたが、各グループにおけるリーダー・サブリーダーが一部決まらず、規約の見直しを含めグループ体制の本格始動は、令和4年度からの実施に延伸しました。

★活動の成果・課題

- ①防災調査票による状況把握での効果
 - ・発災時，ご支援頂ける方を把握できたため，この方々からリーダー・サブリーダーを選定することができたが，一部未選定の

グループについてどのように選定するかが課題である。

- ・「支援が必要」と意思表示された方の中に，市が実施している「災害時避難行動要支援者避難支援プラン」をご存知無い方がおられたが，内容説明後プランに参加された。
- ②防災用資機材の整備及び発電機の試運転による効果
 - ・優先順位を決め計画的に整備ができ，資機材の充実が図られた。
 - ・試運転を班長を含め実施したため，必要時に対する事前訓練となった。

★苦勞した点・工夫した点

- ①グループにおけるリーダー・サブリーダーの選定について，コロナ禍のため対面での業務内容の説明等が不十分であったため，ご理解を頂くのに時間を要した。
- ②災害時避難行動要支援者に対するきめ細かな支援のため，半年に1回状況確認を実施している。



問合せ先：市コミュニティ推進課 TEL：0297-64-1111

④防災に関する活動（住民自治組織）

事例⑬ 高砂区町会自主防災訓練【高砂区町会】

★活動内容

- ・高砂区町会自主防災訓練
- ・隔年毎に自主防災訓練を実施

★活動スケジュール・プロセス

- ・実施年度は消防署出身の町会役員が主導で計画書を作成，会議で役割分担を決める。
- ・防災訓練実施 5 カ月前より計画し，市危機管理課・龍ヶ崎消防署に行き計画書を説明し支援を依頼。
- ・作業の依頼ほか 3 カ月前に社会福祉協議会に行きポップコーン機・わた菓子機の借入書類を提出。
- ・たつのこアリーナに行きテーブル・椅子の借用依頼を提出。
- ・訓練前日に手分けして社会福祉協議会に行きポップコーン機・わた菓子機の借用ほか，たつのこアリーナに行きテーブル・椅子の借用，当日の参加者の賄い用，焼きそば・五目飯・豚汁の仕込み。
- ・防災訓練 1 カ月前に回覧板で周知後，訓練 10 日前迄に参加者を班長が把握し役員に報告。

★活動の成果・課題

- ・不慮の災害がいつ起きるか分からないので町会員が関心を持って参加することができた。
- ・消火器を初めて扱って使用方法について勉強になったと感謝された。
- ・参加者の賄い用，焼きそば・五目飯・豚汁が大好評で次回も参加したいと多くの申し出あり。
- ・子どもたち用のポップコーン機・わた菓子機の稼働により親子での参加もあり災害に備えた訓練に感謝された。
- ・町会内の保育園児の参加申し込みもあり老若男女を問わず災害時の備えとなった。

★苦勞した点・工夫した点

- ・事前に把握していた参加申込み以上に当日は多くの参加者があった。飲食品等が行き渡るか訓練実施中も心配した（前回の訓練参加者は関係者含めて 150 名参加）。
- ・多くの参加が得られるよう豚汁等の提供，子ども用のポップコーン，わた菓子機の稼働を回覧板で周知。



問合せ先：市コミュニティ推進課 TEL：0297-64-1111

④防災に関する活動（住民自治組織）

事例⑭ 消火器等の点検【新町南区町内会】

★活動内容

消火器・防災備品等の点検
町内配備(41箇所)の消火器点検（年3回）
防災機材等の棚卸点検（年1回）

★活動スケジュール・プロセス

春、夏、冬の各季に消火器箱、消火器の点検、周辺の草刈りを要する場合その都度実施。
年度当初に防災機材等の棚卸点検。

★活動の成果・課題

- ・設置した消火器（箱も含む）を定期的に点検し、補修・更新を行い、消火器管理簿に記録。公園除草時に消火器を設置した箇所の除草に努めているが、実施できていない箇所があるため別途計画し実施したい。
- ・年度当初に役員全員で防災機材等の点検を行い管理台帳を更新。

★苦勞した点・工夫した点

- ・消火器点検
消火器箱損傷の状況、消火器の状況をチェックし、更新期は台帳と照合。
- ・防災機材点検
役員全員で点検及び試運転を行うことにより、誰でもが必要に応じて機材を稼働可能となるようにした。

問合せ先：市コミュニティ推進課 TEL：0297-64-1111

④防災に関する活動（住民自治組織）

事例⑮ 自主防災組織の取組【駒馬町上米区】

★活動内容

1. 組織の強化：区長直属の専門部会を設置し、特命事項について企画・立案・実行を推進する。
2. 災害時の行動指針の策定：防災の手引きを活用し、災害に対する心構えを啓発する。
3. 防災倉庫の整備：地域の災害支援に対応出来る工具、機械、電気製品等の充実を図ると共に、非常食、水等の備蓄品を確保する。

★活動スケジュール・プロセス

1. 末端まで機能する新組織体系の構築。
2. 防災手引き、災害に対する行動の手引き作成、配布、説明会開催。
3. 防災コンテナを駒馬財産区上米会館に設置し、防災関連備品を格納。
4. 防災パックの購入、支援、配布
1 世帯当たり 2 個まで。1 パック当たりの費用負担を 1,000 円とし、残額 3,000 円は区負担とした。

★活動の成果・課題

1. 専門部会を設置し、責任と権限を明確化することにより、メンバーの意識が高まりアクションがスピード化した。
2. 行政や区の情報が各家庭に迅速に伝わる様に、班の構成を 10 世帯以内に整理した。
3. 体制を維持、強化して行くことが重要であり、また地域住民とのコミュニケーションを継続的に図って行くことが課題。
4. 予算の関係もあり、防災関連備品はまだまだ不十分で、継続して充実化する必要あり。
5. 防災パックの配布は防災意識高揚の一環として実施。

★苦勞した点・工夫した点

1. 組織を活性化させる為、区長直属の専門部会（総務、防災、環境）を設置し、活動のレベルアップとスピード化を図った。
2. 部会活動の活性化は、問題意識を持ったリーダーの配置が絶対条件である。

問合せ先：市コミュニティ推進課 TEL：0297-64-1111

④防災に関する活動（住民自治組織）

事例⑯ 自主防災組織の取組【水門2区】

★活動内容

地域の防災に関する諸活動

- ・ 地域内防災訓練の実施
- ・ 防災倉庫の備品充実化
- ・ 地域内消火設備の点検
- ・ 防災関連（台風、水害等）の広報

★活動スケジュール・プロセス

1. 年度初めに年間活動計画を策定。
2. 毎月1回定例会議を開催。
3. 各イベント、活動等は年間活動計画に基づき実施。

★活動の成果・課題

1. 継続的活動により、地域の防災意識は確実に高まっている。
2. 自主防災会会員の更なる増強が課題。

★苦勞した点・工夫した点

予算が潤沢に有る訳ではないので、防災備品の充実化は予算との調整が必要。

④防災に関する活動（住民自治組織）

事例⑰ 防災訓練及び懇親会【久保台自治会】

★活動内容

久保台行部内公園にて、自治会会員相互の防災意識を高めることと、会員相互の親睦を図ることを目的として、防災訓練及び会場内での炊き出しをはじめ、子どもを中心としたゲームなどを実施する。地域内コミュニケーション、助け合い精神の促進、大規模災害緊急時におけるスムーズな対応を目指す。

★活動スケジュール・プロセス

- ①平成 30 年 5 月 14 日 会議
（当日までのスケジュール確認）
- ②平成 30 年 7 月 9 日 会議
（実施内容、準備物の検討）
- ③平成 30 年 8 月 19 日 会議
（当日のスケジュール、準備物の確認）
- ④平成 30 年 8 月～10 月
・ちらし、チケット等の作成、参加者募集、
・消防署との打ち合わせ
食材、縁日の景品等の調達、レンタカーの手配等
- ⑤平成 30 年 11 月 4 日
防災訓練、懇親会実施

★活動の成果・課題

- ・防災訓練は、消防署の方のご指導と自主防災会の方々のご協力により、大変充実した防災訓練ができた。市長をはじめ、50 人を超える自治会員の参加をいただき、会員の皆さんの防災意識を、真剣かつ楽しい雰囲気の中で高めることができた。

- ・懇親会は、さらに多くの参加者（300 人超）となった。豚汁等の炊き出しの他、子ども神輿、縁日の各種出し物、玉入れゲーム（子どもの部、大人の部）、全員参加ビンゴゲームと、多くのイベントで盛り上がり、とても楽しかったとの声を多く聞くことができた。ごみも全て参加者で分担して持ち帰りいただき、後片付けもスムーズだった。総じて自治会員相互の一層の親睦、連携を深めることができたと考える。

★苦勞した点・工夫した点

- ・午後の懇親会で使用する食材の下ごしらえのため、午前中の防災訓練に参加できないメンバーがいた。
- ・他の自治会の役員を招待したことで、他自治会との交流を深めることができた。
- ・受付の人数を前年度から増やしたことで、余裕をもって受付ができた。
- ・縁日は子どもたちに大変好評だった。



問合せ先：市コミュニティ推進課 TEL：0297-64-1111

④防災に関する活動（住民自治組織）

事例⑱ 防災イベント～大地震発生による被害に備えよう【平台2丁目自治会】

★活動内容

【日時】令和元年10月20日（日）

午前9時～正午

【場所】駒馬台小学校体育館及びその脇の校庭

【内容】

①防災訓練

・参集訓練

駒馬台小学校を避難場所と想定し、防災行政無線放送を合図に参集訓練を行う。

・消火器訓練、AED訓練

2班に分かれて、交替で訓練する。

②炊き出し訓練

餅つき、豚汁をつくり、会場で食べる。

③お楽しみ抽選会

防災用品の抽選会を行う。（世帯ごと、空くじなし）

④訓練参加景品・お土産

閉会式終了後、訓練参加景品・お土産を配付する。

（訓練参加者→携帯アルミブランケット、参加者全員→アルファ米）

★活動スケジュール・プロセス

①令和元年3月

定期総会において、自治会イベントの会員アンケート実施及び予算を決定。

②令和元年5月

自治会会員に対し、「イベントに関するアンケート」を実施。

③令和元年6～8月

アンケート結果を踏まえて役員会及び役員・班長会で協議し、10月20日（日）に駒馬台小学校体育館にて「防災イベント」を実施することを決定。

④令和元年9月～前日

会場の確保、市危機管理課との打合せ、参

加者の募集（9月15日）、器材の調達、従事者の検便、サポーター募集及びサポーター会議（10月5日）の実施。

⑤令和元年10月10日

参加申込者へ「開催のお知らせ」及び「お楽しみ抽選会参加用紙」を配付。

★活動の成果・課題

【成果】

防災行政無線放送を利用した参集訓練から始めることにより、災害時の現実感を体験することができた。併せて、餅つきや抽選会などの楽しいメニューを用意し、住民の親睦を深めることができた。

【課題】

準備に手間を要した割には、予想以上に参加者（49人）が少なかった。今後は事前のPRの強化など、参加者の増加に工夫を図る必要がある。

★苦勞した点・工夫した点

①餅つきや豚汁づくり等は、器材の調達や従事者の検便など、事前準備に多くの手間を要した。

②誰もが参加したくなるように、防災訓練、餅つき・豚汁づくり、及び空くじなしの抽選会など盛り沢山の内容を取り入れ、「より楽しく、為になる催し」となることを狙った。

③地域コミュニティ協議会（駒馬台地域ひなっこ協議会）の応援金制度を活用し、費用の大半に充てた。

◎体育館出入口での準備状況



◎もち米の蒸し状況



◎テント張り



◎豚汁食材準備状況



◎豚汁用の食材



◎餅つき開始



◎受付状況



◎つきたて餅の試食



◎きな粉餅, のり巻き餅作り



◎参加賞等の抽選状況



◎消火器取扱い訓練



◎防災イベント状況



◎AED 等操作訓練状況



問合せ先：市コミュニティ推進課 TEL：0297-64-1111

④防災に関する活動（住民自治組織）

事例⑱ 自主防災訓練【花丸区】

★活動内容

花丸地区自主防災組織により、年に1度防災訓練を実施。

★活動スケジュール・プロセス

- ・毎月行っている花丸地区 22 班による班長会議で、防災訓練の日時を決め消防署に申請する。
- ・消防署に協力してもらい 10 月に防災訓練を実施している。
- ・花丸会館を会場に各班長が参加し、9時から応急手当・担架作り・AED・水消火器などの訓練を行う。
- ・訓練終了後、弁当を配り反省会を行いながら親睦を深める。

★活動の成果・課題

防災訓練の活動を通して、いざという時に動けるよう住民同士が協力をして、地域のつながりを強くし防災意識を高めている。

★苦勞した点・工夫した点

毎年各班長が参加するので、一巡すると全世帯が防災訓練を体験したことになる。



問合せ先：市コミュニティ推進課 TEL：0297-64-1111

④防災に関する活動（住民自治組織）

事例⑳ 安否確認訓練【須藤堀町本田区】

★活動内容

自主防災会役員の行動と住民の安否確認表示行動の訓練。役員は、自主防災会本部の立ち上げと安否カードの確認、各役割に応じた行動、住民は電気・ガス等の安全確認と同居者の安全を確認したうえで安否確認カードを玄関前、門などの目立つ所に掲示し状況を示す。

★活動スケジュール・プロセス

令和3年10月24日 午後1時～午後2時30分
防災無線の訓練開始を合図に実施。

【役員行動】

- ①防災対策本部の立ち上げ：本部前道路の緊急車両通行確保・防災用品の設置・AED・コミセン防災倉庫等の確認。（時間計測も含む）
- ②個別安否確認：役員が各家庭を確認し、確認済の場合は安否カードに確認済の付箋紙を貼り付け確認完了が各家庭に分かるようにした。

【住民行動】

- ①同居家族の安否確認。
- ②電気・ガス・緊急持ち出し用品（常用薬等）の確認。
上記2点を確認した結果で安否確認カードを掲示。
午後2時30分 防災無線の終了放送で完了。

★活動の成果・課題

- ①安否確認カードの提示は全世帯（40世帯）協力いただけた。
- ②行動マニュアルを作成して行動したため、役員行動は問題なく完了した。

<課題>

防災用具等の不足、個別安否確認のS O

S に対しての情報連携と行動の整理。

★苦労した点・工夫した点

- ・初めての地域訓練のため、住民の周知方法として各班長に手渡しにて訓練手順書を配布して住民の参加意識を高めた。（回覧では、意識が薄い場合がある）
- ・防災本部という一般では経験ができない方法にて役員のモチベーションを上げることができた。

◎防災本部の設置



◎安否カード



問合せ先：市コミュニティ推進課 TEL：0297-64-1111

④防災に関する活動（住民自治組織）

事例② 大規模災害時の自衛消火【南が丘自治会】

★活動内容

南が丘団地は市中心部から 3km 程度離れており、大規模地震発生時には消防隊は市内の消火に掛かりつけとなり、派遣が間に合わないことが想定される。

そういった場合、団地内の消火栓からスタンドパイプにより、住民が消火活動を行えるように装備した。

★活動スケジュール・プロセス

令和 2 年 9 月

スタンドパイプの装備化を検討開始。

令和 2 年 11 月

スタンドパイプによる放水演習を体験。
スタンドパイプの有効性と活用の可能性を確認した。

令和 3 年 2 月

令和 3 年度にスタンドパイプの調達経費を予算化。

令和 3 年 5 月

スタンドパイプ購入。

令和 3 年 7 月

スタンドパイプを使い 1 回目の放水訓練実施（役員のみ）。

令和 3 年 8 月

スタンドパイプを使い 2 回目の放水訓練実施（住民参加）。

令和 3 年 11 月

スタンドパイプを使い 3 回目の放水訓練実施（住民参加）。

★活動の成果・課題

<成果>

①消火栓から 140m の地点からの放水でも、放水の到達距離は 20m、高さは 2 階の屋根まで到達することを確認できた。

<課題>

②住民による放水訓練の習熟が必要。

③いざという時に活動できるように、出動体制（人員）と即応体制（保管場所）の確保が必要。

④消火栓から 140m 以遠の場所の家屋の消火対応を早急に解決する。

